〔續世繼四宇治の川瀨〕白河院の御世にささきみやすどころなどかくれさせ給て、さるかたゞ〳〵もおはせざりしに、白川殿ときこえ給ふ人おはしましき、その人待賢門院をばやしなひたてまつり給ひて、院も御むすめとてもてなしきこえさせ給しなり、その白川殿あさましき御宿世おはしける人なるべし、宣旨などはくだされざりけれども、世の人ぎをむの女御とぞ申めりし、もとよりかの院のうちのつぼねわたりにおはしけるを、はつかに御らんじつけさせ給て、三千の寵愛ひとりのみなりけり、たゞ人にはおはせざるべし、賀茂の女御と世にはいひて、うれしきいはひをとて、あねおとうとのちにつゞきてきこえしかど、それはかの社のつかさ重助がむすめどもにて、女房にまゐりたりしかば御目ちかゝりしを、これははつかに御覽じつけられて、それがやうにはなくて、これはことの外におもきさまにきこえ給ひき、

〔山槐記〕治承四年四月十二日甲午、今日初齋院、御年四歳、新院（高倉）第一御女、内親王也、母權中納言成範御女號二小督殿一、即新院女房也、○下略

〔平家物語六〕小がうの事

主上○高倉は、れんぼの御涙に思召ゑづませ給ひたるを、申慰め參らせんとて、中宮の御方より、小督と申女房をまゐらせらる、そも此女房と申は、櫻町の中納言ゑげのりの卿のむすめ、禁中一の美人、ならびなき琴の上手にてぞまし〳〵ける、冷泉の大納言たかふさ卿未だ少將なりし時、見そめたりし女房なり、○中略入道相國○平清盛此よしを傳聞給ひて、中宮と申も御娘、○德子冷泉の少將も又聟なり、小がうの殿に二人の聟を取られては、世の中よかるまじ、いかにもして小がうの殿を召出、いて失なはんとぞ宣ひける、小督此よしを聞給ひて、我身の上はとにもかくにも成なん、君の御爲御心ぐるしと思はれければ、或夜内裏をばまぎれ出て、行へも知らずぞ失られける、主上御歎き斜ならず、晝はよるのおとゞにのみ入せ給ひて御涙にゑづませおはします、夜は南殿に出御成て、月の光を御覽じてぞ慰ませまし〳〵ける、入道相國此よしを承つて、扨は君は小督